

深イ〜話!

No.29

「履物並べから学んだ人生観」 — 茗荷村創設者 田村一二氏 —

私は6人の息子を持っているわけですが、彼らがまだ小さいとき、どうしても履物をきちんとそろえられなかった。叱っても、そのときはそろえるが、すぐに元通りに戻ってしまうのです。それで、私が尊敬する糸賀一雄先生にお尋ねしました。

「しつけとは、どういうことですか」と。

先生は、

『自覚者が、し続けることだ。』とおっしゃる。

「自覚者といいますと？」と聞くと、

『それは君じゃないか。君がやる必要があると認めているんだらう？ それなら君が、し続けることだ。』

「息子は？」

『放っておけばいい。』

というようなことで、家内も自覚者の一人に引っ張り込みまして、実行しました。

実際にやってみて、親が履物をそろえ直しているのを目の前で、息子がバンバン脱ぎ捨てて上がっていくのを見ると、「おのれ！」とも思いました。

しかし、糸賀先生が放っておけとおっしゃったのですから、私は叱ることもできず、腹の中で、「くそったれめ！」と思いながらも、自分の産んだ子供であることを忘れて、履物をそろえ続けました。

すると、不思議なことに、ひたすらそろえ続けているうちに、だんだん息子のことも意識の中から消えていって、そのうちに履物を並べるのが面白くなってきたのです。

外出から帰ってきても、もう無意識のうちに、

「さあ、きれいに並べてやるぞ」と楽しみにしている自分に気がつきました。

さらに続けていると、そのうちに、そういう心の動きさえも忘れてしまい、ただただ履物を並べるのが趣味というか、楽しみになってしまったのです。

それで、はっと気がついたら、なんと、息子どもがちゃんと履物を並べて脱ぐようになっておりました。

孔子の言葉に、

「これを楽しむ者に如かず」というのがありますが、私や家内が履物並べを楽しむ始めたとき、息子はちゃんとしてきたわけです。

□先で人に、「こら、やらんかい」というだけでは誰もついてきません。

自分が楽しんでこそ、人もついてくるんだという人生観を、履物並べから学んだ次第です

